

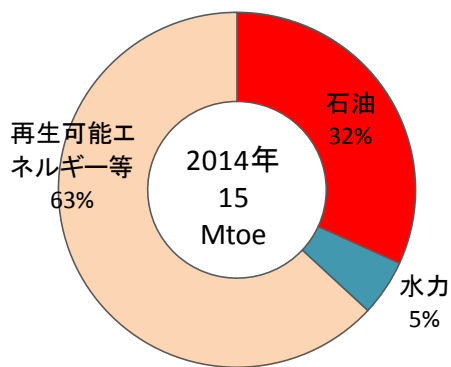
5-6 スーダン

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2014年) : 15 百万 toe (日本の 0.03 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2014年) : 0.38toe (日本の 0.11 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2014年) : 109%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 13.3 百万 CO₂ton (日本の 1.1%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 0.34CO₂ton (日本の 3.6%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2015 年末) : 原油 54.2 年、天然ガス N/A、石炭 N/A

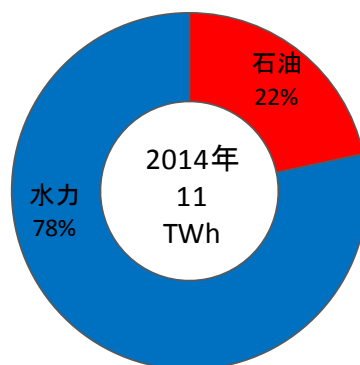
一次エネルギー供給構成 (2014 年)



Country: Sudan

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2014 年)



Country: Sudan

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 2011年7月9日にスーダンから南スーダンが独立し、双方に政策担当機関がある。
- スーダンでは、エネルギー政策を一括して鉱物エネルギー省が担当していたが、国内の電力部門の整備を進めるため、2011年6月の内閣改造で鉱物エネルギー省を、石油省、鉱物省、水資源・電力省に分割した。
- 南スーダンでは独立後、石油・鉱業省、電力・ダム省、環境省を配置している。

(2) 基本政策

- スーダンのエネルギー政策の基本方針は、
 - 外国資本と技術の活用による国内原油生産量の増加と輸出収入の増大
 - 国内エネルギー（石油製品・電力）供給能力の増強と設備の高度化
 - 南スーダン独立による石油収入喪失に対する新たな資源の開発（金、クローム等）
 - 石油収入に過度に依存した産業構造の多様化と対外債務の解決
 - 石油から天然ガスエネルギーへの転換（国営天然ガス企業の設定、天然ガス火力発電の推進、天然ガスパイプラインの建設促進）
- 南スーダンのエネルギー政策の基本方針は、
 - 国家収入の約98%を石油収入に依存しているため、安定的な石油収入の確保
 - 石油収入の適切な管理と運用及び、石油代替業としての農業分野の開発

(3) 最近の動向

- 2015年3月、スーダンと南スーダンのエネルギー大臣が、電力供給と原油供給を相互に行う事で基本合意をした。南スーダンがAdar油田/Yeil油田から生産される原油をスーダンの白NileにあるUm Dabakir発電所に供給し、スーダンは、Kostiで発電された電力を南スーダンに供給する。
- 2015年8月、スーダン内閣の経済発展部門の技術委員会は、電力部門の販売促進のために2015-2020年の枠組み文書を承認した。水資源・電力省は、2020年には水力発電能力を2,000MW、地熱発電を4,555MWに増加する計画を発表した。現在、スーダンは2,400MWの発電能力を持っている。
- 南スーダンでは部族間の対立が深刻で、2015年に和平合意が一旦は成立したものの、2016年7月以降再び内戦状態にある。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 財務省貿易統計によると、2015年度のスーダンから日本への輸出総額は134億円で、原油が28.0万kl輸出され126億円となっている。他方、日本からスーダンへの輸出総額は83億円（含南スーダン15億）となっている。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Sudan

(2014年)

(1) 一次エネルギー供給量		15 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		0.38 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.22 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		109 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量		13.3 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量		0.34 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	0 %
	石油	32 %
	天然ガス	32 %
	原子力	0 %
	水力	5 %
	再生可能エネルギー等	63 %
(8) エネルギーの輸入依存度		-9 %
(9) 石油の輸入依存度		-28 %
(10) 輸入原油の中東依存度		- %
(11) 原油の輸入先	第1位	-
	第2位	-
	第3位	-

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA